学習会

世良田村事件100年の教訓と今日的排外主義

講　師：谷元昭信さん

1951年　岡山県で出生。大阪市立大学法学部入学と同時に、部落解放運動に参画。部落解放同盟中央本部に勤務。
1988 年　反差別国際運動（IMADR）結成、事務局次長に就任。
1990 年　部落解放同盟中央本部事務局長に就任、以後中央執行委員、中央書記次長を歴任部落解放同盟中央本部事務局長に就任。
1998 年 大阪市立大学非常勤講師に就任（2021 年退任）。大阪市立大学熱光会会長（2020 年～）。

部落解放論研究会結成（2021 年共同代表から代表に就任/現職）。
著書『冬枯れの光景―部落解放運動への黙示的考察（上・下）』、『戦後の部落解放運動―その検証と再考』、他。

と　き：2026年5月16日（土）　13時30分～16時30分
ところ：サクラファミリア（カトリックセンター）　4F 会議室
大阪市北区豊崎 3-12-8　　参加費無料・申し込み不要

1925 年 1 月18日夕刻から19日未明にかけ、群馬県の世良田村で差別に起因する騒擾事件が発生しました。村内部落の人々に対し、世良田村とその周辺の人々が大挙して襲撃、あらかじめ組織化された「自警団」とそれを取り巻く群衆の数は3000人規模と言われています。

この事件の直接の発端は、世良田村の住民が「俺はボロを着ていてもチョウリンボウ（※被差別部落の賤称）ではない」と発言したことに対し、居合わせた隣村の水平社員がこれを糾弾したことです。この発言が引き金となり、部落と部落外の人々との対立が激化。部落外の住民らが集まり、夜を徹して家屋の破壊、家財の焼却、傷害などの行為に至りました。
関東大震災から間もない 1925 年 1 月に起きたこの襲撃事件の教訓に学び、今日の排外主義への課題を考えます。

主催：カトリック大阪高松教会管区部落差別人権活動センター
お問合せ・☎075-223-3340（月・火・木 10 時～17 時）／
e-mail　bukatu@kyoto.catholic.jp